



## NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

### ORMZ ニュース第 32 号 (H26.10.5)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄



はじめに 10月、秋を迎えました。皆さんにとってはどんな秋でしょうか。我が家の庭ではいろいろな花が秋を感じさせてくれています。とはいえ、大型台風が近づいています。大きな災害がないことを祈っています。

#### 会の経過報告

ありがたいことにテレビ東京の番組放送以来、多くの皆さんに賛助会員になって頂く（9月末時点で200名を越えました）とともに多くの方々からご寄付を頂きました。26事業年度(1月-12月)の収益が9月末時点で約1,100万円となりました。

そのような皆様の篤志を活かすため、また現地での井戸掘削のための寄附提供、ルアノ地区現地の方々(5地区あります)からの安全な飲料水確保の要望に加え、感染症予防の観点からも、私たちORMZの活動の一環としてルアノ地区にさらに井戸を設置したいと考え、臨時理事会での同意の下、臨時総会を5日(日)に開催し、提案どおりご了承頂きました。詳しくはホームページに資料をアップしますのでどうぞ御覧になって下さい。これも本当に皆さんのご支援の賜です。心からお礼、感謝申し上げます。



臨時総会の様子(宮崎市民活動センター)

次に、認定NPO法人申請後の状況ですが、7月「仕訳帳」「総勘定元帳」の提出、その後各種契約書や請求・領収書類、活動関連資料を提出しております。また経過のご報告をさせていただきます。

今回は、山元先生の不在中に巡回診療に参加された徳島大学の医学生や、看護学生、薬学部生からレポートが届きましたので、皆さんにもお伝えします。

最後に、先日ORMZの活動に賛同して支援(=自動販売機を皆さんの関係する場所で設置していただいた場合に、その売り上げの5%をザンビア医療援助資金として納入してもらえるとというもので、自動販売機メーカーとの手続きもすべて対応)を行っていただけたとの申し出があったNPO法人日本医学歯学情報機構の速水様から届きました「募金機能付き自動販売機設置の案内チラシ」を送らせていただきました。可能な範囲でご協力いただけますと幸いです。よろしくお祈りします。

## ルアノ地区巡回診療同行レポート（徳島大学の皆さんからのレポートです）

### ・徳島大学医学部医学科 5年 田村聡至

今回、ORMZ さんにお世話になり、ルアノ地区での出張検診に同行させていただきました。

ルアノ地区までの道は大変険しいものでした。往路では ORMZ さんの車両のタイヤがパンクし、復路では私たちの車両が坂を登れなくなることが度々ありました。初めてこんなに険しい道を経験した私たちはルアノに到着したときにはすでに疲労困憊でした。

到着すると軽食の後、手際良くスタッフの方々が診察室の設営をされ、すぐに診察が始まりました。数時間でクリニカルオフィサーと看護師の方がたった 2 人で 100 人近い患者さんを診察されたのには驚きました。また処方箋に従って薬を渡すスタッフの方も衛生面に配慮しつつ的確な服薬指導を手早くこなされていました。他の地区のヘルスポストなども見学したのですが、ルアノ地区のスタッフの方々ほどスムーズではありませんでした。

またクリニカルオフィサーの方はお忙しいようで、最初は話しかけるのがためらわれたのですが、一度質問すると丁寧に答えて下さり、マラリア検査キットの使い方から細かい説明、診察の流れなどを教えて下さいました。診察の際、横に呼んで一つ一つ説明しても下さりました。日本の大学病院での研修とは少し違った、非常に良い経験になりました。

ORMZ さんは辿りつくだけでも私たちならヘトヘトになってしまうルアノ地区で月に二回の出張検診をされるというのは大変なことだと思います。そんな土地の病に苦しむ人たちのために一生懸命診察されるスタッフの方々の姿に、私は同じ医療関係者として尊敬の念を禁じ得ませんでした。この見学で学んだことはこれからも忘れずに、自分の将来に活かして行こうと思います。

最後になりましたが、今回の出張検診に同行させていただいた ORMZ さんには本当にお世話になりました。この見学はとても実り多いものでした。ありがとうございました。

### ・徳島大学医学部医学科 2年 高磯 甫隆

今回 ORMZ さんの御活動の様子を拝見させていただきました。その中で特に驚いたことが 2 つあります。

1 つは、山元先生の熱意です。今回私たちは朝の 6 時にルサカを出発してルアノ地区に向かったのですが、車で約 4 時間という非常に長い距離を走りました。そして、そのうち 2 時間はとてつもない悪路でした。薬剤や診察道具を運ぶために自動車で行くしかないのですが、日本ではあのような山道は自動車では決して走らないといってもいいほどのデコボコの山道でした。そのような山奥の村ですから、政府から見放されてしまったようなのですが、そんな道を通ってでも村の方々のために月に 2 回も山元先生の実費で 3 年間通われているということを知り、先生の熱意に驚き、感動しました。ORMZ の現地スタッフの方に山元先生のことを伺ったところ、先生には大変感謝しており、先生のおかげで村の健康状態が非常に良くなったと、おっしゃっておられました。その先生の熱意がルアノ地区の人々にも伝わっていると感じました。



もう 1 つは、ORMZ の現地スタッフの方々を中心として、しっかりと診察体制が整っているということです。患者さんはまず受付をします。初めての患者さんはそこでカルテを作成します。その後、体重・血圧の測定を行い、そして看護師・クリニカルオフィサーの診察やマラリアの検査を行い、最後に薬を受け取るという流れです。山奥の設備のほとんどない場所で、スタッフさんの働きでしっかりと診察体制が整っていることが、ルアノ地区の人々にも伝わっていると感じました。



ていたのです。そして、大変多くの患者さんをテキパキと診察していくことで、短時間で終了することが出来ておられました。日本であれだけの患者さんを半日で診察することはありません。しかし、月に2回しか診療に来られず、日が暮れる前に一人でも多くの患者さんを診察するために、このような素早い診察を可能にしたのだと思います。そのテキパキとしたスタッフの方々の働きぶりに強く感銘を受けました。

今回の見学を通じて、自らの医療への情熱も強まりました。自分も本当に医療が必要とされている場所で働きたいと感じました。

・徳島大学薬学部2年 小田幸弘

街から車で4時間ほど走った先の村の一角で、健診は行われていました。主に乳幼児を対象とした検診ですが、成人の健康診断レベルの診断も同時に実施されていました。

当検診は、ザンビアの現地スタッフのみで行われており、彼らの運営面での技術や検診の手際さ、率先した自発性などが感じられました。また山元先生に対する厚い想いもお話の中で垣間みられ、彼女のひととしての大きさや、これまでの献身的な取り組みを物語っていました。

流れるような検診の中で、私はある一人の少女に注目してみました。その子は診察室に入ってくるや否や、部屋の一切の音を独占してしまうほどの声を出して、母親の腕の中で泣いていました。はじめ、検診に対する恐怖で泣いているのかとも思いましたが、喉が泣き枯れていることから、何か身体の不調から泣いている事はすぐにわかりました。

スタッフは他のこどもと同様に、泣いているその子に対応していきます。初めのクリニカルオフィサーの診断を終えると、すぐにマラリアの検査台に移されました。この検査を専門にするらしきスタッフがそこで対応しており、ほとんどの子どもが泣く、採血の段階での短針の仕様にも慣れているようでした。その子の母親も、慰めながら胸で抱いていますが、針が指先を刺激すると、一層大きな声で泣きました。検査用の血が採れると、スタッフは手際よく検査キットのスポットに血を染み込ませ、その後その子の名前らしき文字を検査キットの縁に書きました。

母親が部屋から出て慰めに行った短い時間で、判定はすぐに出ました。判定穴の所定の箇所に、うっすらとラインが現れており、マラリアの陽性を示していました。

そのような子どもは少なくなく、1日の健診で10数人程の子どもにマラリア陽性が認められているようでした。私はその事実に、その子や母親の気持ちになってみる余裕はないほど、日本との違いに驚くばかりでした。今回の見学を経て、地域医療という言葉の枠組みでは語りきれない何かに触れた気がします。日本においても、地域での医療活動というテーマを考え続けて行こうと思いました。貴重な体験を、ありがとうございました。山元先生、現地スタッフさんのいつまでもお変わりない献身的な活動を願うばかりです。

・徳島大学医学部看護学科3年 原田真理子

ルサカから車で4時間、山の中を進みながら目的の村まで向かいました。看護師さん、助産師さん、クリニカルオフィサーと ORMZ のスタッフに同行し、村での乳幼児検診や健康相談を見学させていただきました。



日本人の私たちが現地に着くと村の医療ボランティアさんが日本からよく来たこと笑顔で出迎えてくれ、ドクター山元は来ているのか?とワクワクしながら聞いてくれました。今回はドクター山元は来っていないという少し寂しそうで、山元先生がいかに村の方から信頼されているのかが垣間見えたような気がしました。

私はそれまでにザンビアで活動されている幾つかの NGO を訪問させていただいたのですが、どこも日本人スタッフが同行し医療保健活動を行っていました。そのため ORMZ では現地で働く日本人スタッフがない期

間があることに驚き、現地の方だけで無事検診を終えることができるのかと不安を抱いていました。しかし、私の不安は杞憂でザンビアの医療スタッフと村のボランティアスタッフが連携し、スムーズな検診が行われていました。地域住民も検診の勝手がわかっているようで、誰に教わるでもなく順々に検診を受けているようでした。日本と疾患も異なり、マラリアの検査をする幼児が多くみられました。マラリアは簡易検査キットがあり、村のボランティアスタッフが血糖測定を行う時のように指先を針で刺し、陽性がどうか判断していました。8月だったためマラリアのピークは過ぎたものの未だに数十人の乳幼児がマラリア陽性と診断され、経口補水液や薬剤の配給を受けていました。

検診の近くには出店が並び食品や衣服を売っており、たくさんの方が利用し、あちこちで村人同士が仲良く話している姿が見受けられました。ザンビアの村は日本人が想像するより広く、歩いて5分行けば隣人に会えるというような距離感のため定期的な乳幼児検診や健康相談は住民間がコミュニケーションをとるうえでも重要なだと気づきました。検診場所の目の前には山元先生と日本からの支援で井戸が作られており、透き通った水が湧き出ていました。住民は井戸を守るために、お手製の木の柵を作り、大事に大事に使っている様子が大変印象的でした。最後にこれまで私が見学してきた村では日本人スタッフの支援を受けてやっと検診が行える状況でした。今回訪問させていただいた村では、ザンビア人が自力で検診を行えるようになっており、先進的で喜ばしい事だと感じました。国際支援には様々な方法があると思います。ORMZの国際支援では日本人スタッフが常駐しなくても、現地の医療スタッフや村のボランティアが自らの医療保健を支えていました。現地の方の力をしっかり引き出し、医療保健を充実できている素晴らしい例だと感じました。



**賛助会費の納入について** 26事業年度（26年1月から12月です）の賛助会費をまだ納入されていない方は、どうぞ賛助会費（一口5000円、一口以上）の送金と連絡をお願いします。納入したかどうかかわからない際は、法人代表 [info@ormz.or.jp](mailto:info@ormz.or.jp) または日高 ([hidaka1956@gmail.com](mailto:hidaka1956@gmail.com)) へ連絡してください。折り返しお返事をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号番号 01720-9-126351

加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ）ザンビアノヘンチイリョウオシエンズルカイ （注：ヲ→オ）

今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします